

都市とライフスタイルの未来を描く国際会議
「Innovative City Forum 2020」初のオンライン開催
～ポストコロナの都市の在り方やライフスタイルについて議論～

森ビル株式会社が運営する森美術館（館長：片岡真実）とアカデミーヒルズ（理事長：竹中平蔵）、および一般財団法人森記念財団都市戦略研究所（所長：竹中平蔵）は、都市とライフスタイルの未来を議論する国際会議「Innovative City Forum 2020（以下 ICF）」を、2020年11月16日～27日に初めてオンラインで開催します。

ICFは「都市とライフスタイルの未来を描く」をテーマに2013年から毎年開催している国際会議です。国内外から科学者、研究者、技術者、アーティスト、デザイナー、企業経営者、ジャーナリスト等、多様な分野のオピニオンリーダーを招聘し、科学技術の進展等による未来のライフスタイルや、その生活を支える都市の未来について議論を積み重ねてきました。これまでの登壇者は総勢368名にのぼります。

8回目となる今年は、「パンデミックとイノベーティブシティ」をテーマに、ポストコロナの都市の在り方やライフスタイルについて議論を展開します。会期の12日間を「ICF ウィーク」と位置づけ、毎日オンラインの分科会を実施。最終日のクロージングセッションでは、モデレーターに森美術館特別顧問の南條史生、ゲストとして史上最年少（29歳）でボン大学哲学科の正教授に就任し、世界から注目を集める気鋭の哲学者マルクス・ガブリエル氏を迎え、各分科会のファシリテーターも交えながら、会期中に積み重ねた議論をさらに深めていきます。



マルクス・ガブリエル
Copyright: Photographer Christoph Hardt of
Future Image & Geisler.

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、世界に「圧縮された変化」をもたらし、人間の価値観や生活スタイルも短期間で大きく変貌することになりました。果たして、この変化はポストコロナの社会にどのような影響を及ぼすのでしょうか？ウィズコロナ下で開催する今年のICFでは、今起きている変化の先にある「ポストコロナの都市の在り方やライフスタイルは、どのように変わるのか、変わらないのか、変えるべきなのか、変えてはならないのか」について、都市、社会、または文化や芸術といった多様な観点から議論を展開します。

【Innovative City Forum 2020 開催概要】

会期：	2020年11月16日（月）～27日（金）
方式：	オンライン
参加費：	各分科会・クロージングセッション（視聴のみ）は無料 各分科会後のアフターセッション※は有料（各分科会定員20名1,000円税別）
申込：	https://icf.academyhills.com/ （10月16日受付開始予定）
主催：	森記念財団都市戦略研究所、森美術館、アカデミーヒルズ
協力：	国際交流基金

※アフターセッションでは、質疑応答など登壇者との双方向対話が可能です。

森ビルは最先端の研究機関や大学、企業と連携し、様々な共同研究や実証実験に取り組んでおります。引き続き、六本木ヒルズをはじめとした“ヒルズ”を舞台に実験や発信を重ねながら、未来の都市とライフスタイルのあるべき姿を議論し、またイノベーションを生み出す都市づくりを実践することで、国際都市・東京の磁力向上に貢献してまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 北村

TEL : 03-6406-6606 FAX: 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

■Arts and Science Session (森美術館 南條史生)

Pandemicと感性の拡張:RealとVirtualの融合がもたらす世界

コロナ禍において日常化したオンラインでのコミュニケーションは、ヴァーチャルとリアルを融合させることで、私たちの世界観を変容させつつあります。このような状況において、現実空間にはより人間の感性に訴える場が求められているのかもしれませんが。本セッションでは「人間の感性と不可視の現実をつないできたアート」を手掛かりにしながら、人と人、人と情報、交流と断絶、個と集団の壮大なせめぎ合いの場である都市の新たな可能性を問います。

■Brainstorming Session (アカデミーヒルズ 竹中平蔵)

DXとニューノーマルがもたらす人間の行動変容 ～私たち人間はどう進化できるか～

コロナ禍によって人々の活動がオンライン化し、世界中でデジタル化が一気に普及しました。私たち人間がテクノロジーに合わせて進化しなければならない一方で、技術の進化のスピードに人間の意識、感性が追いついていないのが現状ではないでしょうか？本セッションでは、DX×New Normal時代に、私たち人間がどう進化すべきなのかをプレストします。

■Urban Strategy Session (森記念財団都市戦略研究所 市川宏雄)

世界都市の構造的変化:ポストコロナ時代における魅力的な都市の姿とは？

コロナ禍が世界の大都市での働き方や住まい方にもたらした変化。それは都市の在り方や、将来の都市構造をどのように変容させるでしょうか？また、そこから見えてくる「都市の本質」とはなんのでしょうか？本セッションでは、世界の大都市の有識者をオンラインで繋ぎ、ポストコロナ時代の都市の姿を、社会学、建築・都市計画、環境など多角的な視点で議論し、いま起こりつつある変化を未来の都市の資産にするためにどうすればよいのかを考えます。

■Closing Session

パンデミックとイノベーティブシティ

世界から注目を集める気鋭の哲学者マルクス・ガブリエル氏を迎え、各セッションで積み重ねた議論をもとに「ポストコロナの都市の在り方やライフスタイル」にフォーカスし、さらに議論を深めていきます。



竹中平蔵(左) 「デジタル庁の設置も決まり、DXが本格化します。凄まじい変化の中で、私達自身の生き方を多角的に問い直したいと思います。」

市川宏雄(中央) 「ペスト、コレラ、サーズなど、都市の長い歴史で感染症との闘いは必然でした。しかし、新型コロナの克服が新たな都市の未来を創ることもまた必然です。」

南條史生(右) 「新型コロナ蔓延は人々の世界観や人生観を変えました。今一度、我々を取り巻く現実はどうなっているのか認識し、その結果をもって、何を未来に投企するのかを議論するべき時が来ています。」

